

## 別科紀要最終号に寄せて

別科長 石川 恵子

本学では、本年4月より、留学生の受け入れ機関として日本語・日本文化教育センターが本格的に始動する。別科は私費留学生の予備教育課程として引き続きこのセンターの一角を担うが、1976年以来、別科学則により予備課程として私費留学生の受け入れた（日本語研修課程）、また、交換留学生への日本語教育のプログラムの提供を行ってきた（日本語特別課程）としての別科の役割は、今年度をもって終了する。併せてこの別科の紀要も本号で最終号となる。今日まで支えてくださった方々に心からの感謝を申し上げる。

特に創立者池田大作先生には、開設当初より今日まで、留学生教育への深いご理解とひとかたならぬご配慮を、また日々留学生には細やかな温かな御激励を頂戴してきた。創立者の存在なくして、この別科の35年間はなかったのだと、衷心よりの御礼をここに記し留めたく思う。

35年間、国境を越え別科に学んだ留学生は、1800人余を数える。修了生の総数から見れば多いとは言えないが、受け入れ地域や交流校の数は他に比しても実に多彩であろう。そして、世界平和に貢献する多くの人材を送り出してきた。別科は、留学生同士が日本語の学習を通し人間教育を学び、友情の絆をはぐくみ、ともに地球市民として生きようとする人間力をはぐくむ場でもあった。

その歴史については、2001年に発刊した「創価大学別科日本語研修課

程 1976 - 2001」に、草創から 25 年間の歩みをまとめているので、本稿では、それ以降のほぼ 10 年にわたる別科の各課程での日本語教育の概要とその課題について述べ、ここに携わってくださった方々への長年のご尽力に報いたいと思う。

2003 年は、留学生受け入れ 10 万人の計画の達成の年であった。本学においても、この 10 年、留学生の受け入れは、多様化の一途をたどってきた。それは、留学形態、受け入れ地域、留学目的や日本語学習のニーズにも大きな変化をもたらしてきた。

本学ではこうした多様な留学生の受け入れに対して、別科には本年度まで別科専任の教員として 7 名の配置があり、留学生の日本語教育に当たることが出来たこと、また国際部をはじめとして各部署での教職一体の留学生支援が得られたことは、本学ならではの特筆すべきことであった。感謝の思いで一杯である。

本年度までの日本語研修課程と日本語特別課程それぞれの概要を、表 I・II に示す。

表 I. 日本語研修課程 (J コース)

教科目	科目名	授業内容	春学期	秋学期	選択・必修	備考
日本語	日本語 (I, II) A	文法・読解	5 単位	5 単位	必修	日本語レベルに応じてクラス分けを行い、レベルに準じた授業を行います。
	日本語 (I, II) B	聴解	1 単位	1 単位	必修	
	日本語 (I, II) C	文字・語彙	2 単位	2 単位	必修	
	日本語 (I, II) D	作文・表現	3 単位	3 単位	必修	
	日本語演習 (I, II)	総合演習	1 単位	1 単位	必修	
	初級漢字	漢字	1 単位	1 単位	選択	
日本事情	日本事情 (人文系)	人文科学	2 単位	2 単位	選択必修	各科目とも複数開講の予定です。各学期 2 科目ずつ選択する必要があります。
	日本事情 (社会系)	社会科学	2 単位	2 単位	選択必修	
	日本事情 (情報・技術系)	情報・生命・環境	2 単位	2 単位	選択必修	
	日本事情 (日本語・日本文化系)	日本文化	2 単位	2 単位	選択必修	
外国語	英語 (I, II)		1 単位	1 単位	選択	
数学	数学 (I, II)		1 単位	1 単位	選択	

※春学期については、日本事情科目を日本語科目に振り替えて行う場合がある。

表Ⅱ. 日本語特別課程

10春Eコースカリキュラム

初級後期 (N4レベル) E4		
科目	単位	
日本語201	4	文型・文法
日本語202	1	読解
日本語203	1	聴解
日本語204	1	文字・語彙
日本語205	1	会話
日本語206	1	作文
日本語207	1	演習

中級前期 (N3レベル) E3		
科目	単位	
日本語301	5	文法・読解
日本語303	1	聴解
日本語304	1	文字・語彙
日本語305	1	11頭表現
日本語306	1	文章表現
日本語307	1	演習

中級後期 (N2レベル) E2		
科目	単位	
日本語401	5	文法・読解

上級前期A (N1レベル) E1		
科目	単位	
日本語501	1	講読
日本語503	1	聴解
日本語504	1	文字語彙
日本語506	1	上級文章表現
日本語507	1	演習

上級前期A (N1レベル) EX3		
科目	単位	
日本語501	1	講読
日本語504	1	文字語彙
日本語507	1	演習

上級前期A (N1レベル) EX2 ※601秋生・501春生		
科目	単位	
日本語601/501	1	講読
日本語603/503	1	聴解

※EX2の秋学期生は601～607  
春学期生は501～507

科目	単位	内 容	レベル	クラス例	担当
初級漢字Ⅰ	1	300字 ※春無	1	E5	無
初級漢字Ⅱ	1	600字	2	E4	水上
中級漢字Ⅰ	1	800字	3	E3	松井
特別演習Ⅰ	1	日能2級(学部) ※春無	3-4	E3-E2	法貴
特別演習Ⅱ	1	文型・文法の運用練習	3-4	E3-E2	倉光
特別演習Ⅲ	1	総合中級日本語演習(院)	4-5	E2-E1	山本
特別演習Ⅳ	1	日能1級(学部)	5	E1-EX3	倉光
日本語601/501	1	評論文を読む ※EX2必修	6	EX2	山本
特殊講義511	1	速読	5	E1-E3	鈴木
日本語303	1	自然な日本語を聞く	3	E3	須山
日本語403	1	ニュース・映画で学ぶ日本語	4	E2	伊東
特殊講義513	1	ニュースで学ぶ日本語	5	E1-EX3	倉光
日本語603/503	1	教養番組で学ぶ日本語 ※EX2必修	6	EX2	倉光
日本語404	1	アカデミックな語彙入門	4	E2	伊東
日本語305	1	劇とプレゼンテーション	3	E3	水上
日本語405	1	インタビュープロジェクト等	4	E2	松井
日本語505	1	スピーチとディベート	5	E1-EX3	法貴
日本語406	1	中級文章表現	4	E2	秋田
日本語506	1	上級文章表現 ※E1必修	5	E1-EX3	松井
日本語307	1	身近なトピックを読む	3	E3	松井
日本語407	1	現代日本社会を読む	4	E2	鈴木
日本語606/506	1	アカデミック・ライティング(学部)	6	EX2	秋田
日本語607/507	1	新書・文庫を読む(学部)	6	EX2	鈴木

※日本語404/406は3rd前半の「漢字・語彙」/「発展と応用」を含む  
※初級漢字Ⅰと特別演習Ⅰは学期によって開講が異なる

選択	科目	単位	内 容	レベル	クラス例	担当
選択	日本文化体験	2	日本伝統文化を学ぶ	4-6	E2-EX	品沢
選択	日本文化体験	2	日本伝統文化を学ぶ	1-3	E3-E5	品沢

選択(学部)	科目	単位	内 容	レベル	クラス例	担当
選択	日本語BⅠ	1	発表の方法	5-6	学部	法貴
選択	日本語CⅠ	1	アカデミック・ライティング(日本語606/506)	6	学部	秋田
選択	日本語DⅠ	1	新書・文庫を読む(日本語607/507)	6	学部	鈴木
選択	日本語EⅠ	1	日能1級(特別演習Ⅳ)	5	学部	倉光
選択	ロシア語特別演習Ⅱ	1	日本語ロシア語表現比較	5-6	学部	江口

組	履修科目例(選択科目変更可)
E4	201～207, 初級漢字Ⅱ
E3	301～307, 中級漢字
E2	401, 403, 404, 405, 406, 407, 特演
E1	501, 503, 504, 505, 506, 507, 特演, 特講
EX3	501, 504, 505, 特演, 特講
EX2	601/501, 603/503, 606/506, 607/507, 特演, 特講

組	必修授業時間(90分)	選択(90分)	総コマ
E4	10	1	
E3	10	1	
E2	5	7	
E1	5	4	
EX3	3	3	
EX2	2	0	
計	35	16	51
		(45分)	102

※上記選択時間は学部代替時間&日本文化を除く

日本語研修課程は、私費留学生を中心とする学部・大学院への予備課程であり、開講科目、修了要件等は学則に定められている。別科での名称はJコースである。定員は35名、初級から上級まで習熟度により3クラスを設置している。開講は毎年4月からの1年で、各クラスに専任教員がコーディネーターとして各授業間のシラバスや進度の調整をはじめ、別科生の修了までの一年間の日本語教育、進路指導、出席管理、生活指導等の全てに当たってきた。

予備課程としてアカデミック日本語の教授を目的とするが、進学が目的でない一年間の日本語学習を希望する者も入学する。併せて、その出身地もアジアだけでなく北南米、欧州等と多岐にわたり、言語背景も、外国語として、母語として、あるいは継承言語として、日本語の習熟レベルも様々で、各コーディネーターが、授業外でも個別にきめ細やかな対応に当たってきた。

明年度からは進学を目的としない学生のために特別履修生としてのコースの提供し、予備課程とは募集も分けるようで、新たな教育が期待できよう。

近年は入学試験対策として、秋学期に集中的に日本留学試験受験の準備の期間を設け、初級から学んだ学生も好成績を収めている。

また、秋学期の日本事情科目では、進学先の各学部の教員が別科の授業を担当し、別科生の学部への基礎力養成等に当たっている。この段階では、初級スタートの学生にとっては、基礎教育といっても、その日本語力からは、ほんの一部を垣間見るにすぎないかもしれないが、学部進学後の教育との連携、継続を可能にするともに、学部教員にとっても、この段階から留学生の学習状況を知るよい機会となっていた。学部の先生方には毎年ご苦勞をおかけしたが、こうした日本事情科目のあり方は、大学付置の別科としての特色を発揮できた一つである。本学への進学希

望者の多い別科の特色を生かした継続的な教育の充実を望みたい。

日本語特別課程では、交流協定を結ぶ44カ国・地域121大学からの交換留学生に加え、アメリカ創価大学からのスタディアブロード・プログラムの日本語研修生、中国全国青年連合会等の各機関からの留学生を受け入れている。留学の目的は、日本語専修の留学生、英語による授業（経済学部が提供するJASプログラム）を中心に受講する学生等、多様であり、当然のことながらその日本語のレベルにも幅がある。そのため、日本語の学習歴のない学生から、日本語能力試験N1レベルに相当する学生のために、各学期5クラスから7クラスの幅広いレベルのクラスを提供してきた。各クラスごとにJコースと同様に専任の教員がコーディネーターとしてその任に当たり、上級クラスでは交換留学生の専攻に応じた学部の授業の特別履修の相談、指導にも応じている。

Eコースでは、日本語スタンダードを視野に入れ、CEFRに準拠した「Eコース日本語基準」を作成し、今日まで積み上げた経験を生かして各クラスの教育内容の改善に努めてきた。交換留学生の中には、自国の大学との単位互換を必要とする日本語を専修の学生と、単位互換を必要としない学生がおり、日本語学習への動機や意欲もさまざまだが、日本での留学を実り多いものとするため、毎学期の授業内容に工夫を凝らしてきた。その成果は、修了の成績だけでなく、2005年から開催してきた各学期末の交換留学生による学習発表会にも大きく反映されている。発表は、個人またクラスの単位で、スピーチ、研究発表、寸劇など日本語の表現方法も内容も多岐にわたり、日本語学習や日本留学の成果を発信する場となってきた。

両課程とも今日に至るまで留学生への年々変化する多様なニーズへの

適切な対応を目指して尽力してきた。日本語は留学生にとってその留学の質を左右する重要な要素の一つである。留学受け入れの入り口ともなる別科での日本語教育が、幾多の留学生の成長の一助となれたなら、大きな喜びである。

現在の留学生 30 万人計画の推進は、これまで以上の多様な留学形態での留学生の受け入れとなるだろう。そうした中でのセンターへの移行は、今後の大学教育の国際化への転換のひとつのきっかけにもなるはずだ。と、同時に受け入れた留学生の育成・教育の重点をどこに置くのかも改めて問われるだろう。今後の日本語・日本文化教育センターの教育の充実と発展を心より期待したい。